

(1) □ □

(2) □

(3)

(103)×18×6 019

(147)×21×3 081

(1)は右辺と下端削り、上端折れ、左辺は二次的切断である。墨痕が二文字分認められるが、左辺の切斷によつて右半分しか残存しないため、判読できない。二文字目は草冠の一部とその下に「口」を二つ重ねた線を追うことが可能である。(2)は上下両端折れ、左右両辺削りである。墨痕が一文字分あるが判読できない。(3)は上端が斜めに折れ、下端も折れ、左右両辺は二次的切斷である。右上から左下にはらつた墨線が三本あるが、右半分が切斷されているため、判読できない。

9 関係文献

九州歴史資料館『大宰府史跡昭和六〇年度発掘調査概報』(一九八六年)

(酒井芳司)

A5判 六四頁。額価一五七五円（税込）
お問い合わせ。お求めは、左記まで。

六一書房 電話 〇三一五一八一一六一六一

FAX〇三一五一八一一六一六〇

西海道古代官衙研究会編

『西海道出土墨書き器集成』の刊行

本書は、西海道地域出土の墨書き土器（刻書き器なども含む）を一覧できる便利な資料集である。九州において幅広い参加者を得て活動を続け、本年九月一五・一六両日に開催した九州特別研究集会の後援団体としても協力をいたいた西海道古代官衙研究会が、特別研究集会を契機に編集・刊行したものである。研究集会で、県・市町村・遺跡名（調査）次数・（出土）遺國単位で、構・土層・種別（墨書きか刻書きなど）・対象物（須恵器・土師器・瓦など）・器形・世紀・時代・文字種（积文）・備考・文献の各項目を表の形で列記し、遺跡ごとに主要なものの図版を掲載している。